教　育　研　究　業　績

氏名　大國　ゆきの

学位：家政学修士

研究分野	研究内容のキーワード
子ども学	子ども環境学

主要担当授業科目	発達心理学　子ども家庭支援の心理学　課題研究Ａ　課題研究Ｂ

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1　教育方法の実践例		特になし
2　作成した教科書，教材		
1)　保育講座　２６　発達心理学	平成 5 年 4 月	乳児期の全体にあたる「パートⅠ」pp. 31-76 を分担執筆
2)　保育・教育ネオシリーズ　5　発達の理解と保育の課題	平成 15 年 4 月	担当執筆部分 pp. 129-143
3)　新時代の保育叢書 発達心理学―子どもの発達と子育て支援―	平成 19 年 3 月	担当執筆部分 pp. 72-83.
4)　新時代の保育叢書 実践･発達心理学	平成 24 年 5 月	担当執筆部分 pp. 91-106
5)　保育の心理学－Ⅰ－	平成 24 年 10 月	担当執筆部分 pp. 68-81.
6)　保育の心理学―Ⅱ―	平成 24 年 10 月	担当執筆部分 pp. 40-53.
7)　子どもとかかわる力を培う　実践・発達心理学ワークブック	平成 25 年 4 月	担当執筆部分 pp. 20-29.
8)　新時代の保育叢書　実践・発達心理学〔第２版〕	平成 29 年 3 月	担当執筆部分 pp. 102-117.
9)　シリーズ　知のゆりかご　保育の心理学	令和元年 4 月	担当執筆部分 pp. 140-157.
10)　シリーズ　知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学	令和元年 8 月	担当執筆部分 pp. 94-112.
11)　保育・教育ネオシリーズ　5　発達の理解と保育の課題［第三版］	令和 5 年 4 月	担当執筆部分 pp. 177-192.
3　教育上の能力に関する大学等の評価		
4　実務の経験を有する者についての特記事項		
5　その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1　資格，免許		
1)幼稚園教諭一種免許状取得	平成元年３月	（平１幼一普第１０５２２号）
2)小学校教諭一種免許状取得	平成元年３月	（平１小一普第１１４９９号）
3)保育士資格取得	平成元年３月	（お茶大６３０８）
4)幼稚園教諭専修免許状取得	平成３年３月	（平３幼専第１０００５号）
5)小学校教諭専修免許状取得	平成３年３月	（平３小専第１０００６号）
2　特許等		
3　実務の経験を有する者についての特記事項		
4　その他		

研究業績等に関する事項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1「ことばが誕生するとき―言 語・情動・関係―」	共著	平成 3 年 2 月	新曜社	共著：無藤隆、田中敏、増山真緒子、麻生 武、無藤隆・奈良ゆきの 本書は言語発生の機序を他者との関係性に 求める六つの論考により編まれている。 担当執筆部分は第６章「ことばの発せられ るとき―ある聴覚障害をもった子どもの事例から―」 P267～P334(共同執筆につき本人担当部 分抽出不可。身ぶりや手話を含めた「ことば」の発生過程における情緒的結びつきと、 規約的ことば以前の「情動の場」、すなわち、 通じ、わかりあっていると互いに信じる心 的状態との重要性を検討したものである。
2 保育講座 ２６「発達心理学」（再掲）	共著	平成 5 年 4 月	ミネルヴァ書房	共著：無藤隆、奈良(大國)ゆきの、福田き よみ、倉持清美 乳幼児の保育を実践する際に念頭におくべき発達心理学の知見を整理したテキストであり、新しい知見と現場での事例の多用と、 現場重視の姿勢を特徴とする。担当執筆部 分は乳児期の全体にあたる「パートⅠ」 pp.31-76.「第 2 章：知的なはたらき・身体 面のはたらきの発達」「第 3 章:情動とコミ ュニケーション」「第 4 章：対人関係や人格の発達」
3「幼児教育リーディングス」	共著	平成 15 年４月	北大路書房	共著：深谷昌志、中田カヨ子、今井和子、大國ゆきの、永井聖二、宮下恭子、金城悟、塙和明、深谷和子、小林厚子、長畑正道、周建中、小原由美子、加藤理論考集。担当 部分 pp.38-48 「お砂場のエスノグラフィー―公園集団に おける人間関係―」公園場面での親子場面 を観察した著者の 5 年間のフィールドワー クで得られた「仲間入りの機序」「いざこざ 場面への対応策」に関するデータを分析し、社会・文化論的視点から、現代の日本の社会化のあり方について論考した。
4 保育・教育ネオシリーズ ５ 「発達の理解と保育の課題」 （再掲）	共著	平成 15 年 4 月	同文書院	共著：無藤隆、藤谷智子、上村佳世子、吉川はる奈、小松歩、平山裕一郎、相良順子、 塩崎万里、大國ゆきの、細川かおり、中島 寿子、中橋美穂。担当部分 pp129-143.第 9 章「発達への援助の基本的考え方」保育初 学者を主な対象に、発達援助の際に保育者 が有するべき基本的な姿勢を説明し、配慮 を必要とする子どもの事例を挙げつつ、発 達援助の大前提たる対象者への「まなざし」 のあり方が、両者の関係性をいかに規定し、保育の可能性を引き出すかを検証・考察した
5「心の保育を考える case６ ７」	共著	平成 15 年 5 月	学習研究社	共著者:青木久子、天野優子ほか 35 名。執 筆分担は pp67,95,105,121,165. 保育者を 対象に実際的なアドバイスを与えつつ、保 育者が有するべき基本的な姿勢を確認する 目的で編集されている一般書である。担当 部分では 主に二歳児クラスを担任する保 育者からの相談にこたえ、個と集団とのありかた、触覚防衛への対応など、具体的に アドバイスした。
6「チョコマカ一才児」	共著	平成 17 年５ 月	主婦の友社	共著: 内田伸子、横井茂夫、高橋惠子、大國ゆきの、大野澄子、岡宏子、常田秀子、 近藤清美、大熊恵子、濱田庸子、秦野悦子、 高須賀直人、中川信子。担当執筆部分 pp.30-46,69-70. 一歳児の保護者を対象とした一般書。育児の悩みへのアドバイス中心で、発達支援を 目的としている。担当部分は「目で見る隣 の一才児」と「一才児の食べ方」。手づかみ食べ、ふらふら食べ、怖いもの知らず、抱っこせがみ等、様々な一才児の姿を紹介し 個性に応じた対応をアドバイスした。
7 新時代の保育叢書 発達心理学―子どもの発達と子育て支援 ― （再掲）	共著	平成 19 年 3 月	みらい	共著：青木紀久代、大國ゆきの、大野和男、 金丸智美、櫻井聖子、塩崎尚美、菅野幸恵、 仲野好重、矢野由佳子、矢吹理恵、南山今 日子、代裕子、冨田貴代子、森椎葉、永井 美鈴、酒井健、

8 新時代の保育叢書 実践・発達心理学（再掲）	共著	平成 24 年 5 月	みらい	谷田征子、大田佐緒梨。担 当執筆部分 pp. 72-83. 第６章「遊びと仲間づくりを支える心の発達」遊びの中での幼 児の仲間関係やコミュニケーション能力、 想像能力の発達と、保育者等の大人の存在 と支援の重要性を概説し、児童期から青年期前期に至る仲間関係の発達までをおさえ、学び手である学生の自己意識や社会性 に関する自覚を促した 共著：青木紀久代、稲垣馨、大國ゆきの、 太田沙緒梨、大野和男、加藤邦子、金丸智 美、菅野幸恵、平沼晶子、仲野好重、矢野 由佳子。担当執筆部分 pp. 91-106. 第７章 「遊びと仲間づくりを支える社会性」保育者養成課程用の発達心理学入門書の中で、 遊びの中での幼児の仲間関係やコミュニケーション能力、想像性、社会性、道徳性の 発達を概観するとともに、児童期から青年 期前期に至る仲間関係の発達までをおさえ、学び手である学生の自己意識や社会性 に関する自覚を促し、保育者等の大人の存 在と支援の重要性を概説した。
9 保育の心理学－Ｉ－（再掲）	共著	平成 24 年 10 月	大学図書出版	共著：立松英子、中井大介、赤津純子、笠原和子、土井原千穂、本多潤子、大國ゆきの、竹内真吾。担当執筆部分 pp. 68-81. 第４章２ 「子育てを支える環境」の、人との相互的かかわり、子育て施策とその背景、親への支援について概説した。
10 保育の心理学―Ⅱ―（再掲）	共著	平成 24 年 10 月	大学図書出版	共著：立松英子、大國ゆきの、竹内真吾、赤津純子、土井原千穂。担当執筆部分 pp. 40-53. 第２章 3-5 「生活や遊びを通した学びの過程」の、子ども相互の関係づくり、遊びの種類と発達、「生きる力」の基礎を培う、について概説した。
11 子どもとかかわる力を培う　実践・発達心理学ワークブック（再掲）	共著	平成 25 年４月	みらい	共著：青木紀久代、稲垣馨、井上万里子、岩藤裕美、大國ゆきの、大野和男、加藤邦子、島本一男、平沼晶子、谷田庄子、矢野由佳子。担当執筆部分 pp. 20-29. 保育者養成課程用の発達心理学のワークブックの中で、第１部「発達と保育実践」の「仲間関係の発達」に関して、ガイダンス、ワーク、事例を通して、「保育者としての願いとかかわり」と題し、保育者という人的環境が子どもたちの人間関係のありようや他者の心への気づき・思いやりの育ちに影響を与えていることに気付かせるプログラムを提供した。
12 新時代の保育叢書　実践・発達心理学〔第２版〕（再掲）	共著	平成 29 年３月	みらい	共著：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、大野和男、加藤邦子、金丸智美、菅野幸恵、富田貴代子、仲野好重、平沼晶子、矢野由佳子 第７章「遊びと仲間づくりを支える社会性」の全文を執筆。担当執筆部分 pp. 102-117. 遊びの中での幼児の仲間関係やコミュニケーション能力、想像性、社会性、道徳性の発達、及び児童期から青年期前期に至る仲間関係の発達を概説し、保育者等の大人の存在と支援の重要性を示唆した。
13 シリーズ　知のゆりかご　保育の心理学（再掲）	共著	令和元年４月	みらい	共著：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、片山伸子、加藤邦子、金子恵美子、金丸智美、高橋千香子、富田貴代子、中村涼、平沼晶子、細野美幸、三好力、矢野由佳子　担当執筆部分 pp. 140-157. 第９章「乳幼児の学びに関わる理論②遊び」の全文を執筆。遊びの中での幼児の仲間関係やコミュニケーション能力、想像性、社会性、道徳性の発達を概説し、保育者等の大人の存在と支援の重要性を示唆した。
14 シリーズ　知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学（再掲）	共著	令和元年４月	みらい	共著：青木紀久代、石井正子、大國ゆきの、小嶋玲子、片山伸子、加藤邦子、金子恵美子、古志めぐみ、菅野幸恵、高橋千香子、武田（六角）洋子、細野美幸、三好力、矢野由佳子担当執筆部分 pp. 94-112. 第６章「家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解」の全文を執筆。家族・家庭の定義から始まり、家族システム理論や家族の発達、家庭支援のソーシャルワークといった家族社会学の知見と技法が身に着くよう演習課題を含めた。特に保育者に必要な子ども・養育者の両方を理解するためのヒントを多く提示した。

15 発達の理解と保育の課題　第三版（再掲）	共著	令和 5 年 4 月	同文書院	共著：無藤隆、藤谷智子、上村佳世子、松嵜洋子、吉川はる奈、小松歩、平山裕一郎、相良順子、 塩崎万里、大國ゆきの、細川かおり、中島 寿子、福丸由佳、中橋美穂。担当部分 pp177-192.第 10 章「発達への援助の基本的考え方」において、発達援助の際に保育者が理解しておきたい基本的な姿勢を説明し、配慮を必要とする子どもの事例をもとに、発達援助の大前提となる対象者への「まなざし」のあり方が、両者の関係性をいかに規定し、保育の可能性を引き出すかを説いた。
（学術論文）				
１１２ヶ月児における「他者への 能動的な問い合わせ」（修士論文）	単著	平成 3 年 3 月	お茶の水女子大学	日本人乳児とその主たる養育者に対し、被 験者家庭と家庭を模した応接室において、 半構造化された social referencing 実験場 面を設定した。それまでの研究では、欧米 と 相 違 し 、日 本 の 乳 児 に は social referencing が見られないとされていたが、 実験場面の生態学的妥当性を再検討し、第 三者介在時の表情性表出の抑制、実験室場 面での過剰な緊張という、文化的要因に配慮した場面を設定することにより、日本で は初めて同現象の存在を示した。
2 身体的情緒情報の働き：乳児期 母子間のコミュニケーションに おける情緒と認知の関連	共著	平成 8 年 4 月	平成４年度～ 6 年度科学研 究費補助金（重 点領域研究）研 究成果報告書 「感性情報処 理の情報学・心 理学的研究」 pp.241-244	共著：無藤隆、田代和美、遠藤利彦、奈良ゆきの（共同研究につき本人担当部分抽出 不可能） 6 ヶ月時、12 ヵ月時に追跡が可能であった 16 組に social referencing 実験と自由遊び 場面の行動と、育児ストレスと乳児の気質 に関する養育者への質問紙調査の結果との 関連を検討した。12 ヵ月児は概ね social referencing を示し、養育者も教示への逸脱 を示さなかった。また、6-7 ヵ月時の気質に 関する報告が、12 ヵ月時の親子の自由遊び 場面での関係の良好さや 12 ヵ月時の育児ス トレスと関連していることが示された。
3 家庭用早期教育教材への接近 場面に関する一調査―親達が扉 を開くとき―	単著	平成 11 年 3 月	東京成徳短期 大学紀要 第 32 号 pp85-92.	自らが被勧誘者として早期教育教材の導入 契機となる宣伝・勧誘の現実過程を探り、 そこでの言説を記述し資料を分析した。誇 大な効果を謳う宣伝と価格の大きさはあっ たが、極端な詐欺的手口や恫喝などは見られなかった。背景に親達の不安感や孤立感、 良いものは高額であるとの感覚が存在、影響するが、導入の主導権・決定権は親側に あり、早期教育指向性が存在すること、家 庭用早期教育教材の販売は能力主義を信奉 する親達をマーケットとした商業活動であることを論じた。
4 育児不安の構造	共著	平成 15 年３ 月	東京成徳短期大学専攻科幼児教育専攻年報「子育て支援」Vol.4.pp.87-1 06	共著：深谷昌志、馬場康弘、神田和恵、三 枝惠子、大國ゆきの、深谷野亜、朴珠鉉 現代日本の都市部、都市近郊部、農村部に おいて実施した育児行動と育児不安に関する質問紙調査の結果の分析である。担当部 分はⅣ章で、母親たちによる自由記述２５ ７件を分類・記述し、育児に関する困難の 継時的な変化や母親たちの心理的負担の性 質について分析した。
5 育児不安の構造（５）	共著	平成 16 年３ 月	東京成徳短期大学専攻科幼児教育専攻年報「子育て支援」Ｖｏｌ．５.pp.67-74.	共著：深谷昌志、深谷野亜、朴珠鉉、大國ゆきの、神田和恵、三枝惠子、馬場康弘、 矢野由佳子、李光衡、周建中、李叔絹、那 須野三津子。担当部分では東京とソウルの 母親たちによる自由記述計５４６を分類・ 記述し、母親達の心理的負担や育児文化、 幼児期の教育に公的援助がなされることの 意義について分析・考察した。
6 短大生の対人態度と不安(2)― 進路選択からの検討―	共著	平成 16 年３ 月	東京成徳短期 大学紀要第 37 号 Ｐ 53 ～ Ｐ 62	共著：矢野由佳子、大國ゆきの （共同研究につき本人担当部分抽出不可 能） 短期大学生一年生女子１０７名に対し、新 入生オリエンテーション時に実施した三種 の質問紙調査もとに分析・考察を行った結 果、保育職をめざして入学した学生には回 避型は少ないがアンビバレント型は決して 少なくないこと、入学時の進路希望の決定 度が高い群に状態不安が低いこと、その不 安は入学時の一時的なものというよりは特 性的なものであるらしいことを導き出し た。
7 発達障害のある学生への教育的支援に関する現状と課題	単著	平成 29 年 3 月	東京成徳短期大学紀要第 50 号	発達障害者支援法が制定され、また、インクルーシブ教育システムとして、障害のある者が一般的

			(P. 19-30)	な教育制度から排除されず、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられ、個人に必要な「合理的配慮」が提供されることが求められる現代社会における、発達障害のある子どもや若者への教育的支援の現状をまとめ、現実的な支援として、情報公開や進路相談等を活用して当事者の自己理解を深める支援が必要であることを提言した
8 外国にルーツを持つ子どもとの出会い―２年目保育士の経験から―	共著	令和 4 年 3 月	東京成徳短期大学紀要第 55 号 (P. 1-12)	共著：大國ゆきの、浅野みのり（共同研究につき本人担当部分抽出不可能）。多文化共生保育の必要性が増大している現代日本都市部において、保育士経験 2 年目に外国にルーツを持つ子どもを担当した事例から、外国ルーツの子ども・保護者と一括りにするのではなく個々の発達を丁寧に読み解くことの必要性と、保護者の母文化によって保育者への態度が異なることの必要性を示唆した。
（その他）				
1 コミュニケーション力を育てる	単著	平成 15 年 10 月	金子書房「児童心理」10 月号臨時増刊 pp. 144-149	執筆箇所「子どものコミュニケーション力 を高める―家庭で―」では、時間のない親 が、時間のなさを子どもに背負わせないための具体的方策や、親が地域のコミュニティに関与しつつ子どもたちの遊びを支え、 育児を進めるなかでのコミュニケーション の育ちを論じた
2 みんなで考える「心の保育」 第 95 回「しかる・怒る」保育を 考える	単著	平成 18 年 3 月	「幼児の指導 ラポム」学習研究社 pp. 52-53.	「叱ることは教育的な行為であり望ましい が、感情的に怒ることはよくない」という 巷間に流布している考え方を保育の現場に 単純に持ち込むことが、「叱っているつもり で怒りつける」「自分の子どもへの向き合い 方を反省しない」ことにつながる危険性を 指摘し、幼児期の子どもに関わる保育者は、 信頼関係に即した子どもの心に届く伝え方 を模索すべきであり、葛藤を抱えつつも子 どもと向き合う姿勢が保育には不可欠だと 提言した。
3)親子で無理なく楽しくできる 「生活習慣のしつけ」は一才から スタート！	単著	平成 21 年 1 月	「こっこクラブ」ベネッセコーポレーション pp38-53.	幼児が生活習慣を身につけられるように、 家庭で養育者が行うことのできるサポート にはどのようなものがあるのか、具体例を 多く盛り込みながら、手指機能の発達、言 語発達、スクリプト知識や清潔の理解など の認知機能の発達などを具体的に解説し、 発達に即した育児ができるよう支援した。

（注）「研究業績等に関する事項」には，書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。